

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(平成29年度)

2. 分野等別状況 (2)地域活性化総合特区 ②ライフ・イノベーション分野(6/11)

	総合評価 (IとIIとIIIを1:1:2の割合で計算)	I 目標に向けた取組の進捗	II 支援措置の活用と地域独自の取組の状況	III 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
東九州メディカルバレー構 想特区 (大分県、宮崎県)	3.6	4.2 <u>進捗度</u> ・医療関連機器の市場化件数 100% ・新規医療機器製造登録事業所・製造販売許可業者数 150% ・新規輸出する医療関連機器を製造する企業 50% ・新規海外医療技術人材育成数 1,239%	2.5 <u>規制の特例等</u> ・非治験臨床性能評価制度適用の拡大 <u>地域独自の取組</u> ・大分県医療機器産業参入加速化事業 ・宮崎県産学官連携促進・共同研究開発支援事業(医療・福祉関連) 等	3.8	<ul style="list-style-type: none"> ・2県間の連携による地域独自の取組も含め、全体として順調に進展している。産学官の連携により、医療機器の海外展開を見据えた人材育成・交流が急速に進んでいることは特に評価できる。 ・オープンイノベーションの場となると、更なる発展が期待できる。 ・評価指標(4)新規海外医療技術人材育成数の実績値が目標値を大幅に上回っており、より適切な目標の再設定が必要である。また、大学や医療機関等の受け入れ体制が十分かどうかチェックしながら、必要な支援を行っていくことも重要だと考える。 ・企業による透析医療の海外展開にあたっては、移植医療とのバランスも考慮する必要があるのではないか。 ・透析技術の海外展開によって、医療関連機器の製造企業数の増加や輸出額の増加だけでなく、消耗品の輸出額の増加も期待できるのではないか。